

第3章 医事

近年、急速な少子高齢化の進展、医学の進歩による医療の高度化・専門化の進展、安全で安心できる医療を求める住民の要請など、医療を取り巻く環境は、大きく変化してきており、医療に対する安心・信頼を確保し、質の高い医療サービスが適切に提供される体制を構築していくことが求められている。

このため、患者の医療の選択を支援するための医療に関する情報の積極的な提供、医療機能の分化・連携の推進、医療安全対策の総合的推進、さらに、小児科、産科等の医師の確保対策などに取り組み、地域における必要な医療の確保に努めていく必要があり、地域における医療及び介護の総合的な確保を推進することを目的とした「地域医療構想」を策定している。

また、救急医療体制については、初期救急医療体制として、休日急病診療所、休日在宅当番医制が、第二次救急医療体制として病院群輪番制、後方ベッド確保対策がとられている。しかし、夜間及び小児の診療体制の確保や機能分担に応じた救急医療体制の構築が課題であることから、保健所では、小児救急を中心とする救急医療体制の確保を図るため、「岐阜圏域小児救急医療協議会」を設置している。

医療安全管理体制については、最近の医療機関における事故等に鑑み、病院等の立入検査において、安全管理体制の確保、医師等の資格確認、医療従事者の健康診断の徹底等を確認している。とりわけ、近年は医療機関を対象としたサイバー攻撃の事案が発生しており、医療機関におけるサイバーセキュリティ体制の徹底について重点的に確認している。